

愛知県環境評価審査会会議録

1 日時 平成25年9月6日(金) 午後2時から午後2時55分まで

2 場所 愛知県自治センター4階 大会議室

3 議事

- (1) 知多都市計画道路1・3・6号西知多道路環境影響評価準備書について
- (2) 北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について
- (3) その他

4 出席者

委員16名、説明のために出席した職員15名、都市計画決定権者及び事業者10名

5 傍聴人 7名

6 会議内容

- ・ 議事録の署名について、大東会長が中川委員と夏原委員を指名した。
- (1) 知多都市計画道路1・3・6号西知多道路環境影響評価準備書について
 - ・ 資料1から資料3までについて、事務局から説明があった。
 - ・ 資料4について、廣島部会長から報告があった。

<質疑応答>

【夏原委員】 資料3の知多市長意見の2(1)で、地域分断について言及されているが、部会報告には盛り込まれていないことからすると、環境要素ではないということか。

【廣島部会長】 愛知県では、環境要素としていないことから、取り入れていない。

【大東会長】 その他に意見はないか。

(委員から意見等はなし)

【大東会長】 資料4の部会報告の内容をもって審査会の答申とすることとしてよろしいか。

(委員から意見等はなし)

【大東会長】 異議なしとされたので、部会報告の内容でもって審査会から知事への答申とする。

- ・ 資料4の「知多都市計画道路1・3・6号西知多道路環境影響評価準備書に関する部会報告」を審査会答申とすることで合意し、別紙1のとおり答申した。

(2) 北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について

- ・ 資料5及び資料6について、事務局から説明があった。
- ・ 資料7について、井上部会長から報告があった。

<質疑応答>

【長谷川委員】 方法書において、調査することとされているスナメリについては、中部電力株式会社の「西名古屋火力発電所リフレッシュ計画」の環境影響評価の中で、その調査結果が示されている。今後の調査の結果、生息が確認された場合は、その対応策は示されるのか。また、調査の期間は、船上から年4回ほどであり、確認されない可能性が高いが、生息しているであろうという推測の中でどのように判断されることになるのか。

【事業者】 スナメリについては、方法書に記載のとおり、他の動植物の船上での各調査時に確認していく。また、他事例の調査結果等の文献も参考にしながら準備書を取りまとめていきたい。

【長谷川委員】 準備書の段階では、他事例の環境影響評価の結果を踏まえて対策を検討した方がよい。

【事務局】 調査を進める中で、その対策も検討されることとなるであろうが、今回は方法書であり、スナメリについては船上からの目視調査をすることとされている。

【大東会長】 その他に意見はないか。
(委員から意見等はなし)

【大東会長】 資料7の部会報告の内容をもって審査会の答申とすることとしてよろしいか。
(委員から意見等はなし)

【大東会長】 異議なしとされたので、部会報告の内容でもって審査会から知事への答申とする。

- ・ 資料7の「北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書に関する部会報告」を審査会答申とすることで合意し、別紙2のとおり答申した。

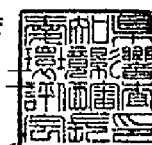
(3) その他

- ・ 特になし。

平成25年9月6日

愛知県知事
大村秀章 殿

愛知県環境影響評価審査会
会長 大東 憲



知多都市計画道路1・3・6号西知多道路環境影響評価準備書
について(答申)

平成25年4月10日付け25環活第11号の諮問については、別添のとおりお答えします。

知多都市計画道路1・3・6号西知多道路環境影響評価準備書
に対する答申

はじめに

知多都市計画道路1・3・6号西知多道路環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

都市計画決定権者は、以下の事項について十分に検討し、その結果を環境影響評価書（以下「評価書」という。）に記載する必要がある。また、事業者は、評価書に記載される内容に従って環境保全に万全を期する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 事業の実施に当たっては、準備書に記載されている環境への配慮事項や環境保全措置を確実に実施することはもとより、環境保全対策に関する最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減に努めること。
- (2) 環境への影響に関して新たな事実が判明した場合等においては、必要に応じて適切な措置を講じること。
- (3) 事業実施に至るまでに長期間を要する可能性があることから、必要に応じて事業実施段階における環境の状況を把握すること。
- (4) 知多市南粕谷本町付近において、道路構造として函渠を選定するに至った検討経緯を詳細に記載すること。

2 大気質、騒音、振動

- (1) 住居等の近傍における工事の実施に当たっては、建設機械の配置、稼働時間帯に配慮し、建設機械の稼働に係る騒音の低減に努めること。
- (2) 対象事業実施区域周辺では、効率的な運行による車両台数の抑制及び平準化、低公害型車両の積極的な導入を図り、工事用車両の運行に伴う道路沿道への大気質、騒音及び振動の影響をより一層低減するよう努めること。
- (3) 騒音について、対象事業実施区域周辺には静穏な地域もあることから、環境保全措置を実施するとした場所以外においても、必要に応じて、工事中における防音シートなどの遮音対策や供用時における遮音壁の設置を行うこと。また、対象道路において、住民等への影響のさらなる低減を図るため、必要に応じて、低騒音舗装の敷設等を行うこと。

3 水質

- (1) 工事に伴い裸地等から発生する濁水の流出防止のため、必要に応じて設置している沈砂池等について、十分な能力を有する沈砂池等にするとともに維持管理を適切に行うこと。
- (2) 河川、ため池等の水域における工事の実施に当たっては、濁水の流出を防止するため、適切な措置を講じること。

4 地盤沈下、地下水の利用

函渠部分の工事に係る環境保全措置として、「止水性のある土留壁の設置」や「観測修正法の実施」を行うとしているが、これらの環境保全措置の内容をわかりやすく記載すること。

5 動物、植物、生態系

- (1) 環境保全措置及び事後調査の実施に当たっては、専門家の指導や助言を得ながら、関係機関と連携のもと適切に行うこと。
- (2) コオイムシ等の環境保全措置として照明器具の改良を行うとしているが、住民の健康に影響を及ぼさない範囲で、昆虫の走光性を考慮したLEDライトの採用を検討すること。
- (3) 環境保全措置として実施する橋脚設置位置の検討、工事計画及び施工時の配慮に当たっては、動植物への影響をできる限り低減する内容とすること。
- (4) 盛土や切土法面等は、外来種による生態系の攪乱を防止するため、極力在来種による緑化を行うとしているが、緑化に当たっては、生物多様性に配慮して、変化に伴い発生する表土を活用するとともに、多様な植生となるよう努めること。また、生物多様性に配慮した維持管理に努めること。
- (5) 生態系について、上位性の視点から生態系を特徴づける注目種としてキツネを追加し、キツネに係る影響についても予測・評価を行うこと。
- (6) テンやホンドタヌキの環境保全措置として、跨道橋及びボックスカルバートの活用により、移動経路を確保するとしているが、こうした施設の設置や農道、水路等の付け替えに当たっては、動物の移動経路を踏まえた位置に設置するとともに、その構造の決定等についても、地域の生態系ネットワークの形成に配慮すること。

(7) 知多半島地域における生態系ネットワーク形成の一環として進められている臨海工業地帯の企業緑地での取組等との整合性が十分に図られるよう検討すること。

6 景観

遮音壁の設置に当たっては、周辺景観との調和に努めること。また、その影響について、できる限りわかりやすく示すこと。

7 廃棄物等

工事中に発生する廃棄物等について、発生を抑制することはもとより、再使用又は再生利用を徹底するとともに、再使用又は再生利用できないものについては、適正かつ迅速に処理すること。

8 温室効果ガス

事業に伴う温室効果ガス排出量を把握するとともに、温室効果ガス排出量の削減に十分配慮すること。

9 事後調査

事後調査の手法について、できる限り具体的に示すこと。

10 その他

(1) 評価書の作成に当たっては、住民等の意見に配慮するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。

(2) 事業の実施に当たっては、今後とも積極的な情報発信を行うとともに、住民等からの環境に関する要望などに適切に対応すること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
平成25年 4月10日	審 査 会	知事からの諮問 準備書の内容の検討 部会の設置及び付託
平成25年 6月11日	部 会	準備書の内容の検討 住民意見の概要の検討
平成25年 7月26日	部 会	準備書の内容の検討 公聴会意見の検討
平成25年 8月30日	部 会	準備書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告の検討
平成25年 9月 6日	審 査 会	準備書の内容の検討 住民意見の概要の検討 公聴会意見の検討 関係市長意見の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

愛知県環境影響評価審査会委員

	生田 京子	名城大学理工学部准教授
	井上 隆信	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
	酒巻 史郎	名城大学理工学部教授
◎	大東 憲二	大同大学情報学部教授
	武田 美恵	愛知工業大学工学部講師
	田代 むつみ	名古屋大学大学院工学研究科助教
	田中 稲子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授
	谷村 篤	情報・システム研究機構国立極地研究所教授
	谷脇 弘茂	藤田保健衛生大学医学部講師
	東海林 孝幸	豊橋技術科学大学環境・生命工学系講師
	富田 寿代	鈴鹿国際大学国際人間科学部教授
	中川 弥智子	名古屋大学大学院生命農学研究科准教授
	那須 民江	中部大学生命健康科学部客員教授
	夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授
	成瀬 一郎	名古屋大学エコトピア科学研究所教授
	西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
	二宮 善彦	中部大学工学部教授
	長谷川 明子	公益財団法人日本生態系協会評議員
	葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部准教授
	廣畠 康裕	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
	増田 理子	名古屋工業大学大学院工学研究科准教授
○	松尾 直規	中部大学工学部教授
	光田 恵	大同大学情報学部教授
	柳澤 紀夫	公益財団法人日本鳥類保護連盟理事
	山澤 弘実	名古屋大学大学院工学研究科教授
	山田 佳廣	三重大学大学院生物資源学研究科教授
	吉久 光一	名城大学理工学部教授
	吉村 いづみ	名古屋文化短期大学教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)

平成25年9月6日

愛知県知事
大村秀章殿

愛知県環境影響評価審査会
会長 大東憲



北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について
(答申)

平成25年5月16日付け25環活第7-1号の諮問については、別添のとおりお答えします。

北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書に対する答申

はじめに

北浜ふ頭地先公有水面埋立てに係る環境影響評価方法書について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

事業者は、以下の事項について十分に検討した上で、適切に環境影響評価を実施し、その結果を踏まえ環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）を作成する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 対象事業の目的並びに対象事業実施区域を決定するに至った背景及び経緯について、具体的に示すこと。
- (2) 「公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン」（平成20年4月 国土交通省）に基づき、複数案が設定され、環境面等から比較評価された結果が記載されているが、それぞれの評価結果が導かれた理由は明らかにされていないことから、その根拠を具体的に示すこと。
- (3) 事業計画及び工事計画の具体化に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を考慮し、最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減について検討すること。また、今後選定される具体的な埋立工法については、環境の保全の観点から選定理由をわかりやすく示すこと。
- (4) 調査地点及び予測地点について、その設定理由をわかりやすく示すこと。
- (5) 環境影響評価の実施中に環境への影響に関し新たな事実が生じた場合等においては、必要に応じて、選定された項目及び手法を見直し、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

2 大気質、騒音、振動

工事計画の具体化に当たっては、周辺環境に配慮するため低公害型の建設機械、車両等を積極的に採用するとともに、道路沿道の環境に十分配慮して工事関係車両の運行計画の作成及び一層の海上輸送の活用を検討すること。

3 水質

- (1) 北浜ふ頭前面の泊地内に水質の調査地点が1地点設定されているが、流況の変化による水質への影響が懸念されることから、当該泊地内において水質の調査地点を追加すること。
- (2) 複数案の比較評価に当たって行われた流況の予測結果を踏まえて、高潮防波堤外側の流速が低下する域において水質・流況の調査地点を追加すること。

4 動物、植物、生態系

- (1) 北浜ふ頭前面の泊地内に設定されている動物プランクトン、植物プランクトン、底生生物、魚卵・稚仔魚及び魚介類の調査地点を、泊地内を代表する地点に変更すること。また、泊地内の東側で行うこととしている付着生物（動物・植物）の調査地点を実施可能な範囲で泊地内を代表する地点に近づけるよう変更すること。
- (2) ポートアイランド東側面と高潮防波堤の隅角部にはアマモ場がみられるとの情報があるとしているが、その存在の有無等を確認の上、必要に応じ、適切に予測及び評価を行うこと。

5 その他

- (1) 準備書の作成に当たっては、わかりやすい図書となるよう努めること。
- (2) 準備書に使用する用紙等は、環境に十分配慮したものとする。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
平成25年 5月16日	審 査 会	知事からの諮問 方法書の内容の検討 部会の設置及び付託
平成25年 7月 1日	部 会	方法書の内容の検討
平成25年 8月 2日	部 会	方法書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告の検討
平成25年 9月 6日	審 査 会	方法書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

愛知県環境影響評価審査会委員

	生田 京子	名城大学理工学部准教授
	井上 隆信	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
	酒巻 史郎	名城大学理工学部教授
◎	大東 憲二	大同大学情報学部教授
	武田 美恵	愛知工業大学工学部講師
	田代 むつみ	名古屋大学大学院工学研究科助教
	田中 稲子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授
	谷村 篤	情報・システム研究機構国立極地研究所教授
	谷脇 弘茂	藤田保健衛生大学医学部講師
	東海林 孝幸	豊橋技術科学大学環境・生命工学系講師
	富田 寿代	鈴鹿国際大学国際人間科学部教授
	中川 弥智子	名古屋大学大学院生命農学研究科准教授
	那須 民江	中部大学生命健康科学部客員教授
	夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授
	成瀬 一郎	名古屋大学エコトピア科学研究所教授
	西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
	二宮 善彦	中部大学工学部教授
	長谷川 明子	公益財団法人日本生態系協会評議員
	葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部准教授
	廣畠 康裕	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
	増田 理子	名古屋工業大学大学院工学研究科准教授
○	松尾 直規	中部大学工学部教授
	光田 恵	大同大学情報学部教授
	柳澤 紀夫	公益財団法人日本鳥類保護連盟理事
	山澤 弘実	名古屋大学大学院工学研究科教授
	山田 佳廣	三重大学大学院生物資源学研究科教授
	吉久 光一	名城大学理工学部教授
	吉村 いづみ	名古屋文化短期大学教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)